

第9回日本有機農業学会 秋田大会

とき

2008年
12月6日(土)~7日(日)

ところ

カレッジプラザ
〒010-0001 秋田市中通2丁目1-51
明徳館ビル2階

参加費

会 員 **3,000円**
非 会 員 **4,000円**
学 生 **2,000円**
農業研修生 **2,000円**
(秋田県在住者に限り、非会員 **2,000円**)

お問い合わせ先

大会事務局
秋田県立大学 谷口吉光

〒010-0195
秋田市下新城中野字街道端西241-7
電話 018-872-1626
FAX 018-872-1677
メール tani@akita-pu.ac.jp

1日目

12月6日(土)

9:00 受付開始

9:30~12:00 全体セッション1

有機農業への転換に伴う、農業生態系の修復と技術問題、特に、害虫防除の観点から

コーディネーター 野中昌法(新潟大学)

報告者 高橋史樹(広島大学名誉教授)

対立的防除から調和的防除へ:自然・有機農業の背景を振り返る

根本久(埼玉県農林総合研究センター)

有機野菜栽培農家ほ場における天敵利用の実証

日鷹一雅(愛媛大学)

自然・有機農法と害虫 その後?(仮題)

13:00~15:30 全体セッション2

国産有機農産物流通の現状と課題

コーディネーター 波野 豪(三重大学)

報告者 高橋太一(近畿中国四国農業研究センター)

有機農業経営からみる国産有機農産物流通チャンネルと流通活動の多様性:類型分析視点と現状の整理をもとに

大木 茂(麻布大学)

流通の多様化と生産者・消費者の対応:消費者団体を対象に

酒井 徹(秋田県立大学)

遠隔産地における認証制度導入後の有機農産物流通の変化と課題:北海道を事例として

岩本 泉(鹿児島大学)

有機農産物の広域流通と地場流通:鹿児島県有機生産組合を事例に

15:45~17:30 全体セッション3

有機農業・農民経営の現状と可能性—東北からの報告—

コーディネーター 谷口吉光(秋田県立大学)

報告者 河内山耕(うたがき優命園)

「里山共生農場 うたがき優命園」の16年の取り組み

豊下勝彦(ポークランドグループ)

素人集団が始めた企業型養豚事業の挑戦

志藤正一(庄内協同ファーム)

庄内協同ファームのあゆみ

徳野貞雄(熊本大学)

有機農業・農民経営の現状と可能性(仮題)

18:30~20:30 懇親会(秋田ビューホテル)

2日目

12月7日(日)

9:00~10:00 総会

10:00~12:00 個別報告
(個別報告の詳細は裏面をご覧ください)

13:00~16:00 個別報告

個別報告 プログラム

(プログラムは変更される可能性があります)

会場	時間	発表者	所属	タイトル
第1	10:00~10:20	岩石 真嗣	財)自然農法国際研究 開発センター農業試験場	甲信越地域の有機水稻栽培の実態と技術確立の課題
	10:20~10:40	阿部 大介	同上	稲ワラ分解程度の違いがコナギの生育肥大に及ぼす影響
	10:40~11:00	三木 孝昭	同上	代かき土壌中の残存有機物量と雑草発生
	11:00~11:20	岸田 芳朗	岡山大学	制限放飼がカモの行動特性と抑草・抑虫効果に及ぼす影響
	11:20~11:40	橋本 忠浩	北海道網走農業改良 普及センター	有機栽培による施設ホウレンソウの硝酸態問題とその対策
	11:40~12:00	藤田 正雄	財)自然農法国際研究 開発センター農業試験場	有機質肥料が畑作物の生育・収量および大型土壌動物の群集構造に及ぼす影響
第2	10:00~10:20	宇根 豊	農と自然の研究所	天地有情の農学を求めて 第6報 世界認識の方法論
	10:20~10:40	久保田裕子	国学院大学	有機農業推進法制定以降の「有機」表示認証制度のあり方
	10:40~11:00	船戸 修一	東京大学	「提携」の現在—「安全な食べ物をつくって食べる会」を事例として—
	11:00~11:20	河本 大地	神戸夙川(しゅくがわ) 学院大学	「都市農村交流」を超えて持続可能な地域づくりへ
	11:20~11:40	金森 千明	北海道大学大学院	食農旅連携による地域活性化の可能性 —千葉県南房総市三芳地区を事例に—
	11:40~12:00	謝 新 梅	宮崎大学	有機農業の取り組みに伴う生産者の意識の変化に関する考察 —中国江蘇省句容市D村の事例をとって—
第3	13:00~13:20	中川 孝俊	静岡県農林技術研究所	静岡県における環境保全型農業の現状と課題
	13:20~13:40	康 磊	日本大学	有機農産物・食品の日中比較研究
	13:40~14:00	古沢 広祐	国学院大学	世界食料危機と有機農業～2008年の世界動向に関する —考察:「未来を耕す」有機農業世界大会報告を中心に—
	14:00~14:20	幕田 武広	マクタアメニティ株式会社	有機農産物等のサプライチェーンマネジメントシステムの開発
	14:20~14:40	藤野 由衣	新潟大学大学院	有機・慣行栽培トマトの養分動態の比較検討
	14:40~15:00	野中 昌法	新潟大学	インドネシアスマトラ島における現地生物資源を用いた土壌修復
	15:00~15:20	大下 穰	財)微生物応用技術研究所	耕起方法の工夫による水稻雑草抑制 (自然農法における現場事例とその反響)
	15:20~15:40	古川勇一郎	新潟県農業総合研究所	新潟県における有機稲作の概況とチェーン除草の取り組み
	15:40~16:00	長谷川 浩	東北農業研究センター	有機水稻栽培における雑草対策としての複数回代掻きと育苗

参加申込書

下記の必要事項をご記入の上、**11月24日(日)**までに郵送、E-mail (tani@akita-pu.ac.jp)、FAX (018-872-1677)のいずれかでご返送ください。E-mailの場合、必要事項が記入されていれば様式は問いません。

■お名前

■会社名・団体名

■TEL

■FAX

■E-mail

■住所

■参加費 ※いずれかにチェックしてください

会員 3,000円

非会員 4,000円

学生・
農業研修生 2,000円

秋田県在住者
に限り、非会員 2,000円

■懇親会への参加 ※いずれかにチェックしてください

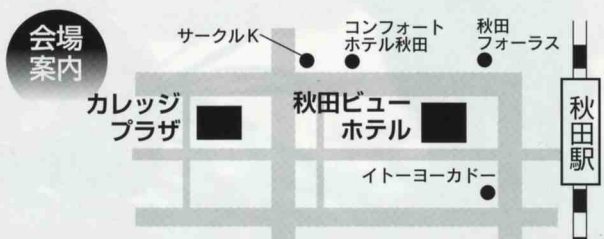
・時間: 18:30~20:30

・場所: 秋田ビューホテル

・参加費: 5,000円

参加する

参加しない



※個人情報の取り扱いに付いて ご記入いただいた個人情報は、本シンポジウムの運営管理および後に開催するイベントのお知らせのためにのみ使用します。